

安保・戦争国会粉碎へ!

2015年6月20日
No.303

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

6・15学生集会での鈴木たつお弁護士による連帯あいさつ

●25人が切り開いた60年安保闘争

70年闘争はものすごい闘いでした。しかしその中心部隊と言うのは、そんなに最初から何千何万がいたってわけではないです。60年安保闘争もそうです。第一次60年安保闘争と言うのが、国民会議と言うのが当時あって、そのとき東大教養の自治会からデモに行ったのは25人でした。それが一年後にはあつというまに膨らむという、誰も想像できなかった。それで70年闘争と言うのは、67年10月8日、羽田弁天橋の闘いです。当時の佐藤首相がベトナムに参戦するためにアメリカに飛び立つ。それを全学連と、当時結成されたばかりの反戦青年委員会、私も当時は反戦青年委員会の一員でしたけど、それが絶対阻止で闘うわけですね。その中で京大生の山崎博昭君が警官隊によって殺される。そういう中での70年安保闘争の高揚を作っていく契機、きっかけになっていくわけですが、その時でも何千というわけではないんですよ。生き方を決した、眈を決して絶対に佐藤を飛び立たせない、ベトナムの人民に連帯するんだって人たちが200~300です。それがひとつの情勢を切り開いていった。だから60年70年を超える闘争って言うのは、そういうところから始まる。今私たちは手にしているんだということをもまず初めに連帯の挨拶として申し上げたい。

今日6・15ですが、その日でも夜中になればなるほど聞きつけて国会に駆けつけてくる。次の日の6・16は大雨でした。その日には、みんな「今日はデモだ」って決めてる。そういう情勢が、最初の25人から始まる。先駆性理論とかよく論議されたんですが、やはり学生運動がもつ力と言うのは現場に現れた。日本の戦後階級闘争って言うのはそういう形で常に闘われて来たって言うのは、まず押さえてもらいたいと思うんです。

●弁護士も生きていけない

みなさんいま必死に議論していると思うんです、クラスで、法大の門前でも、いろんな議論があって、反論とか色々出ていると思うんですが、全学連の斎藤さんが通信で書いてあって、私もまったく賛成なんです、確かに60年70年と今、学生が決起する条件は違う。それは私たちは否応なく見ざるを得ない現実だし、また当然それは私たちが目にします。三重苦という、学費、就活、奨学金。実はこれは学生だけに限らないんですよ。我々弁護士もまったく同じです。司法試験に受かったけれど、苦勞している。孤独な優等生といって、中学高校と孤独に徹した優等生、司法試験に受かって、弁護士会に入ろうとすると、そのときは借金が600万円まで膨らんでる。一方で

は弁護士会のほうでも就職口がないと言う。いま激減しているわけですね。私は、日本の支配階級が命脈尽きていることの表れだと思うんです。

22~23で600万円の借金を抱えて、仮に弁護士になっても返せやしないですよ。破産できないですからね、我々の場合。破産したら一生なれないんですよ。

●学生が根本的に決起する時代

確かに一昔前みたいに戦争の記憶が新しい時代ではない。いろんな、決起を妨げる要素がある。一言で言うと団結、人と結びつくこと、仲間と話すことが破壊されている。隣の人と話すのが大変だという、私たちの世代では信じられない話です。分断されてしまう社会になった中で、逆に私は坂野さんや斎藤さんが言ったように、学生が根本的に決起できる時代が来ていると思います。中途半端なことでは確かにだめですよ。一生この世の中で奴隷として、あるいは奴隷頭として、名ばかり店長とかありますよね、ブラックアルバイトだとか、奴隷頭として結局終わるのか、それとも人間としての自由、尊厳を追求して生きていくのかと言う選択は逆に今ほどわかりやすい時代はない。

いわんや戦争です。安倍のために死ぬるかと言うスローガンは私は素晴らしいと思います。あの「きけわだつみのこえ」という有名な戦没学生の手記があります。1943年10・21雨の明治神宮での行進から始まって、兵役優遇が解除されて学生が戦場に送られます。その人たちが明日の死を前にして遺書を書かせられます。その内容は天皇崇拜とか愛国心とかじゃない。これは一握りの資本家の、中国侵略のためにアメリカと戦争やる中で自分が殺されるとわかっている。だけどばらばらにされちゃって抵抗できない自分を合理化するために、親とか恋人とか家族とか古里のために自分が死ぬんだってこと。わかっていながら自分に言い聞かせて、死に赴いていく。それがいま目の前にきている。

●労働者階級に身を投じるということ

三重苦、さらに戦争。この世の中で奴隷または奴隷頭として生きてく、あるいは戦争の中で犬死していくなんてのは我々は選択肢に入らない。ではどうするのか。私は難しいところだと思うんです。一言でいうと、労働者階級と共に歩む。労働者階級の階級に身を投じるといふことだと思ひます。ある意味で飛躍と決断が必要です。考えるだけじゃ結論つかない。この世の中で戦争をとめる力は誰にあるのか。



次の世の中をつくるのは誰なのか。労働者階級じゃないか。労働者階級が、中世から生まれて、資本主義社会の中で最も虐げられながら、全世界をひとつにできる力、能力、その労働者階級の立場に自分が身を投じる。人間の豊かさ、自由、それが次の社会の担い手である労働者階級にある。ここに身を投じていく。私は、常に学生青年に問われる。特に学生には問われる。青年労働者は存在そのものの中から、自己解放をつかみ取っていきますから。学生は、厳しさはあるんだ。そこを選択しようじゃないかということなんです。

●ゼネストと国際連帯で安倍倒そう！

最後に、この安倍の戦争政治をどう倒していくか。戦争絶対反対とよく言う。どうして倒すか？ゼネストと国際連帯だ。戦争反対という事を100万回叫んでもそれだけでは無力ですよ。止める力は労働者階級の団結を見せつけるもの。ゼネストでしょ。この社会を動かしているのは俺たちなんだ、俺たちの言うことを聞けと。それでも戦争に進むんだったら俺たちの力で倒しちまおう、そして新しい社会の担い手は労働者階級なんだと。

これはスターリン主義＝ソ連や中国とは違います。中国の政権も酷い。北京大学の法学部のエリートだけが占めてる。労働者階級自身が社会を担ってるそれ自身の延長に次の社会があるんだという事です。

もう一つは言うまでもなく国際連帯です。戦争阻止というのはどうしたら実現できるのか。憲法九条はたいした力にはならないと思います。「戦争をする自国の政府」を倒す、隣の国、例えば「中国が攻めてきたらどうすんの」というリアリズムに、スルーしていくのは良くないと思う。中国人民が、戦争やる政権を倒すんだ、自国政府をそれぞれが打倒する、その連帯なんだと。それが、実際に戦争をストップさせる力なんだ。それぞれの国が、それぞれの国の人民が、自分の国の政府が戦争をやろうとしたら、倒しちまう。お互い連帯して倒す。労働者には国境とか、国益なんてない。国益は1パーセントの資本家のためだけだ。国境なんてモノは、近代国民国家っていうものが形成された時に、その時の支配階級が勝手に敷いたものです。人

民の生活には国境なんてモノは全然無いじゃないですか。何で中東とかアフリカに定規の線で引いたような国境があるんですか。国境や、国益なんてのは労働者階級にはない。そういう意味で国際連帯が出来る。自国政府打倒、それが国際連帯の中身なんです。

中国では年間、およそ五十万件の暴動が起こってますよね。とうとう、新しい労働者階級が今中国でも生まれだした。その中国の鉄道労働者、そして韓国・民主労総の鉄道労組が動労千葉に連帯のメッセージをくれるようになった。凄まじい弾圧の中です。しかしついに中国でも、そういった労働者階級の決起が始まった。私はそういう形で見るのが、最もリアルなんじゃないんですか？九条は人類の英知なんだなんて言ってるほうがむしろ、リアリズムないよ。そういう非常にリアルなところに私たちは、動労千葉とか動労水戸の闘いを踏まえて、日々の私たちの闘いを踏まえて立ってるんだということを私は確認していこうじゃないかと思えますし、だから今、そういう具体的なリアリズムを持って、さらに学生の中に入って行こう。その中で色んな論をしよう。60年の時を思い出すとね、70年もそうですが、やっぱり議論の場を奪うんだよね敵はね。法政大学のようにピラひとつ受け取らせない。ふざけんじゃない！我々は勝っていこうではありませんか。絶対に我々は勝てる！そのリアリズムを我々は持っているということを訴えて、連帯の挨拶を終わりたいと思います。（拍手喝采）



6月15日の国会前集会！

【当面する行動方針】

●韓国・民主労総ゼネスト連帯！ 6・28集会

6月28日(日) 13時半～ 東京・江戸川区総合文化センター大ホールにて



●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回＝判決

6月29日(月) 11時～ 東京地裁419号法廷にて ※傍聴券配布のため、10時半までに裁判所入口脇に集合してください。

●7・1「集団的自衛権閣議決定1周年」弾劾！ 法大包囲デモ

7月1日(水) 12時半に法政大・市ヶ谷キャンパス集合～13時にデモ出発

●安倍をととも倒そう！ 7・5大集会

～「7・1 集団的自衛権閣議決定」一周年 改憲・戦争・原発・首切りのABE TAOSE!～

7月5日(日) 13時～ 東京・ニッショーホール(消防会館2F)にて

【主催】許すな改憲！ 大行動(改憲・戦争・原発・貧困許さない大行動 <http://yurusunakaiken.com/>)